

(2) 死 亡

ア 死亡数及び死亡率

死亡数は83,597人で、前年の82,221人より1,376人増加した。

死亡率は人口千人に対し11.8で、前年の11.5を0.3ポイント上回った。全国（13.0）と比較すると1.2ポイント下回っている。

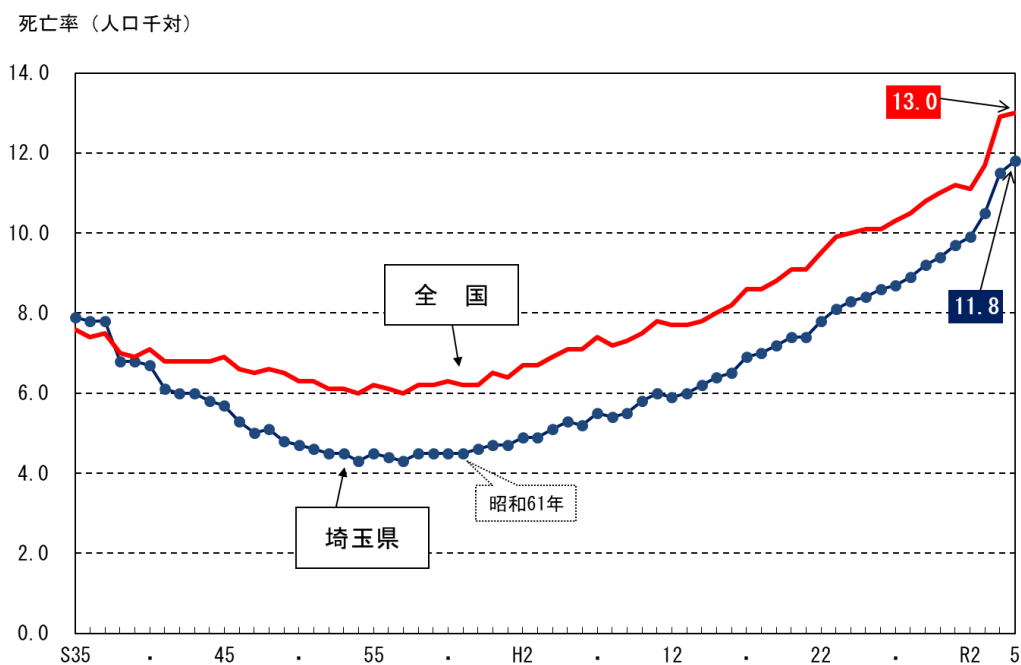
死亡率の年次推移をみると、昭和35年7.9、昭和45年5.7、昭和55年4.5と低下し、以降4.5前後で推移していたが、昭和61年以降上昇傾向に転じた。（表－7、図－5）

表－7 死亡数及び死亡率の年次推移

		S35	40	45	50	55	60	H2	7
数	埼玉県	19 089	20 117	21 836	22 688	24 129	26 417	31 222	36 799
	全 国	706 599	700 438	712 962	702 275	722 801	752 283	820 305	922 139
率	埼玉県	7.9	6.7	5.7	4.7	4.5	4.5	4.9	5.5
	全 国	7.6	7.1	6.9	6.3	6.2	6.3	6.7	7.4
		12	17	22	27	R2	3	4	5
数	埼玉県	40 486	48 095	55 487	62 566	70 758	75 164	82 221	83 597
	全 国	961 653	1 083 796	1 197 014	1 290 510	1 372 755	1 439 856	1 569 050	1 576 016
率	埼玉県	5.9	6.9	7.8	8.7	9.9	10.5	11.5	11.8
	全 国	7.7	8.6	9.5	10.3	11.1	11.7	12.9	13.0

注：率は人口千対である。

図－5 死亡率の年次推移（埼玉県・全国）



イ 都道府県別にみた死亡率

都道府県別にみると、本県の死亡率は昭和 63 年以降平成 13 年まで低率順で第 1 位、平成 14、15 年は沖縄県に次いで第 2 位、平成 16 年以降は沖縄県及び神奈川県に次いで第 3 位、平成 27 年～29 年は第 4 位、令和 2～5 年は第 6 位となっている。

(表－8)

表－8 都道府県別にみた死亡率

	S60			H2			7			12			17		
	都道府県	率	順位	都道府県	率	順位	都道府県	率	順位	都道府県	率	順位	都道府県	率	順位
高 率 順	全 国	6.3		全 国	6.7		全 国	7.4		全 国	7.7		全 国	8.6	
	高 知	8.7	1	高 知	9.3	1	島 根	10.0	1	高 知	10.2	1	島 根	11.6	1
	鹿 児 島	8.5	2	島 根	9.1	2	高 知	9.9	2	島 根	10.2	2	高 知	11.5	2
	島 根	8.3	3	鹿 児 島	8.8	3	鹿 児 島	9.6	3	秋 田	10.1	3	秋 田	11.4	3
	和 歌 山	8.2	4	徳 島	8.7	4	島 取	9.4	4	山 口	10.0	4	山 口	11.2	4
	徳 島	8.0	5	和 歌 山	8.7	5	山 口	9.4	5	島 取	9.7	5	山 形	11.0	5
	山 形	7.8	6	島 取	8.5	6	和 歌 山	9.4	6	徳 島	9.7	6	和 歌 山	10.9	6
	島 取	7.8	7	山 口	8.5	7	徳 島	9.2	7	和 歌 山	9.6	7	鹿 児 島	10.9	7
	大 分	7.8	8	山 形	8.3	8	秋 田	9.0	8	山 形	9.6	8	徳 島	10.7	8
	山 口	7.7	9	大 分	8.3	9	佐 賀	9.0	9	鹿 児 島	9.5	9	岩 手	10.6	9
佐 賀	7.6	10	佐 賀	8.3	10	愛 媛	9.0	10	大 分	9.3	10	愛 媛	10.6	10	
低 率 順	沖 縄	4.5	1	埼 玉	4.9	1	埼 玉	5.5	1	埼 玉	5.9	1	沖 縄	6.7	1
	埼 玉	4.5	2	神 奈 川	5.0	2	神 奈 川	5.7	2	神 奈 川	6.0	2	神 奈 川	6.8	2
	神 奈 川	4.6	3	千 葉	5.2	3	沖 縄	5.8	3	沖 縄	6.1	3	埼 玉	6.9	3
	千 葉	4.8	4	沖 縄	5.3	4	千 葉	6.0	4	千 葉	6.3	4	千 葉	7.4	4
	愛 知	5.1	5	愛 知	5.7	5	愛 知	6.3	5	愛 知	6.6	5	愛 知	7.4	5
高 率 順	全 国	9.5		全 国	10.3		全 国	11.1		全 国	12.9		全 国	13.0	
	秋 田	13.2	1	秋 田	14.5	1	秋 田	16.1	1	秋 田	18.6	1	秋 田	19.3	1
	高 知	12.8	2	島 根	13.9	2	高 知	14.6	2	高 知	17.1	2	青 森	17.7	2
	島 根	12.8	3	高 知	13.8	3	青 森	14.5	3	青 森	16.8	3	高 知	17.3	3
	山 口	12.3	4	山 形	13.4	4	島 根	14.5	4	岩 手	16.5	4	岩 手	17.0	4
	山 形	12.1	5	青 森	13.1	5	山 形	14.5	5	山 形	16.3	5	山 形	16.7	5
	和 歌 山	12.1	6	徳 島	13.1	6	岩 手	14.3	6	島 根	16.1	6	山 口	16.6	6
	鹿 児 島	11.9	7	和 歌 山	13.1	7	山 口	13.9	7	和 歌 山	16.0	7	和 歌 山	16.4	7
	徳 島	11.9	8	山 口	13.1	8	徳 島	13.9	8	山 口	15.9	8	徳 島	16.4	8
	岩 手	11.9	9	鹿 児 島	13.0	9	和 歌 山	13.8	9	徳 島	15.7	9	島 根	16.3	9
島 取	11.9	10	岩 手	12.9	10	愛 媛	13.6	10	愛 媛	15.5	10	愛 媛	15.9	10	
低 率 順	沖 縄	7.3	1	沖 縄	8.0	1	沖 縄	8.6	1	東 京	10.4	1	東 京	10.2	1
	神 奈 川	7.6	2	神 奈 川	8.4	2	東 京	9.0	2	沖 縄	10.4	2	沖 縄	10.5	2
	埼 玉	7.8	3	東 京	8.5	3	神 奈 川	9.4	3	滋 賀	11.0	3	滋 賀	10.9	3
	愛 知	8.1	4	埼 玉	8.7	4	滋 賀	9.4	4	神 奈 川	11.0	4	神 奈 川	11.0	4
	東 京	8.1	5	愛 知	8.8	5	愛 知	9.7	5	愛 知	11.2	5	愛 知	11.2	5
							埼 玉	9.9	6	埼 玉	11.5	6	埼 玉	11.8	6

注 1：率は人口千対である。

注 2：順位の数出には、小数点第 2 位以下を考慮している。

ウ 死因

(ア) 死因順位

令和5年の死亡数を死因順位別にみると、第1位は悪性新生物 21,009人（死亡総数の25.1%）、第2位は心疾患 12,641人（15.1%）、第3位は老衰 9,338人（11.2%）、第4位は脳血管疾患 4,992人（6.0%）、第5位は肺炎 4,933人（5.9%）となっている。

死亡率（人口10万対）を前年と比較すると、老衰（131.3）が13.0ポイント、悪性新生物（295.4）が6.2ポイント、肺炎（69.4）が4.4ポイント、誤嚥性肺炎（37.4）が4.1ポイント、心疾患（177.7）が2.2ポイント、間質性肺疾患（19.6）が0.9ポイント、不慮の事故（26.4）が0.1ポイント上昇した。

一方、脳血管疾患（70.2）が2.7ポイント、新型コロナウイルス感染症（29.9）が10.9ポイント低下した。

（表－9）

表－9 主な死因別死亡数及び死亡率（対前年比較）

埼玉県

死 因	令和5年			令和4年			令和4年との比較		
	数	率(人口 10万対)	死亡総数に 占める割合	数	率(人口 10万対)	死亡総数に 占める割合	数	率(人口 10万対)	死亡総数に 占める割合
総 数	83 597	1 175.3	100.0	82 221	1 152.2	100.0	1 376	23.1	
悪 性 新 生 物	21 009	295.4	25.1	20 635	289.2	25.1	374	6.2	-
心 疾 患	12 641	177.7	15.1	12 525	175.5	15.2	116	2.2	△ 0.1
老 衰	9 338	131.3	11.2	8 444	118.3	10.3	894	13.0	0.9
脳 血 管 疾 患	4 992	70.2	6.0	5 199	72.9	6.3	△ 207	△ 2.7	△ 0.3
肺 炎	4 933	69.4	5.9	4 640	65.0	5.6	293	4.4	0.3
誤 嚥 性 肺 炎	2 662	37.4	3.2	2 374	33.3	2.9	288	4.1	0.3
新 型 コ ロ ナ ウ イ ル ス 感 染 症	2 128	29.9	2.5	2 912	40.8	3.5	△ 784	△ 10.9	△ 1.0
不 慮 の 事 故	1 881	26.4	2.3	1 874	26.3	2.3	7	0.1	-
腎 不 全	1 495	21.0	1.8	1 498	21.0	1.5	△ 3	-	0.3
間 質 性 肺 疾 患	1 396	19.6	1.7	1 337	18.7	1.6	59	0.9	0.1
小 計	62 475	878.3	74.7	61 438	861.0	74.7	1 037	17.3	-
そ の 他	21 122	296.9	25.3	20 783	291.2	25.3	339	5.7	-

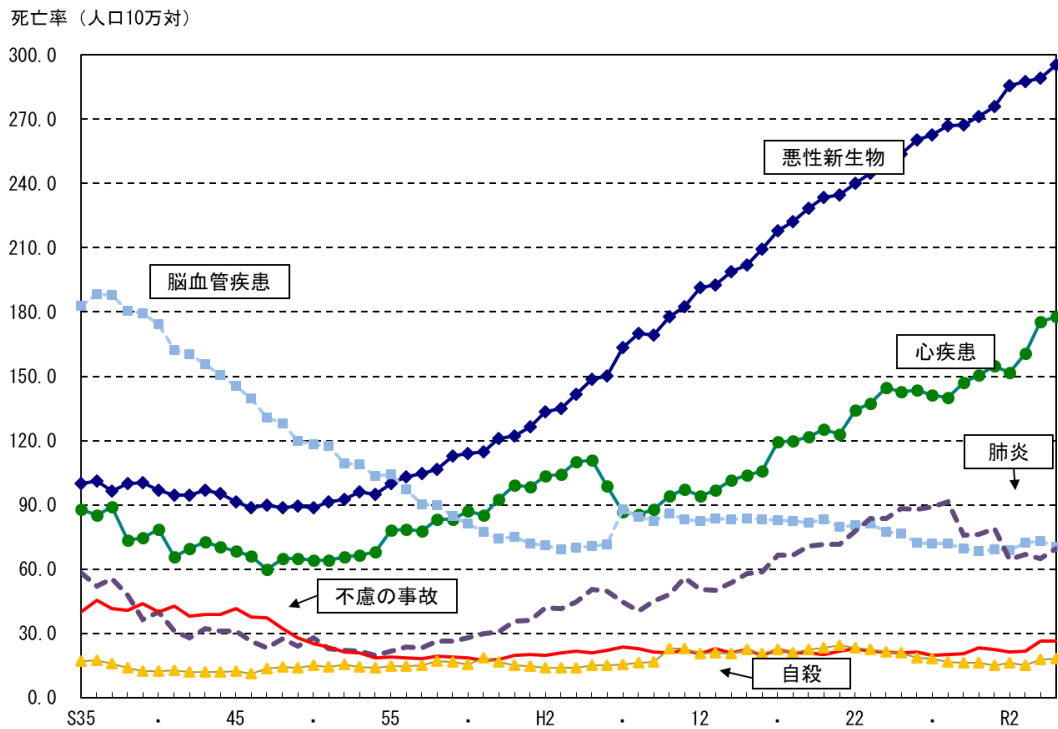
死因別に死亡率（人口10万対）の年次推移をみると、悪性新生物は昭和55年以降概ね上昇が続き、平成15年には200.0を超え、令和5年は295.4となった。また、死因順位は、昭和56年以降第1位となり、令和5年の死亡総数に占める割合は25.1%となっている。

心疾患は、昭和60年に脳血管疾患にかわり第2位となり、その後も緩やかな上昇を続けており、平成14年から100.0を越えている。令和5年の死亡総数に占める割合は15.1%となっている。

脳血管疾患は昭和36年をピークに低下し、昭和56年には悪性新生物にかわり第2位に、さらに昭和60年には心疾患にかわり第3位となり、その後も低下傾向にある。平成23年には肺炎にかわり第4位となり、令和5年の死亡総数に占める割合は6.0%となっている。（表－9、図－6）

なお、平成6、7年の心疾患及び平成7年の脳血管疾患の著しい変動は、死亡傾向が急激に変化したものではなく、死因分類（ICD-10）及び死亡診断書の改正によるものと考えられる（図－6の「注」を参照）。

図－6 主要死因別死亡率の年次推移（埼玉県）



注：死因分類(ICD-10)及び死亡診断書の改正による影響

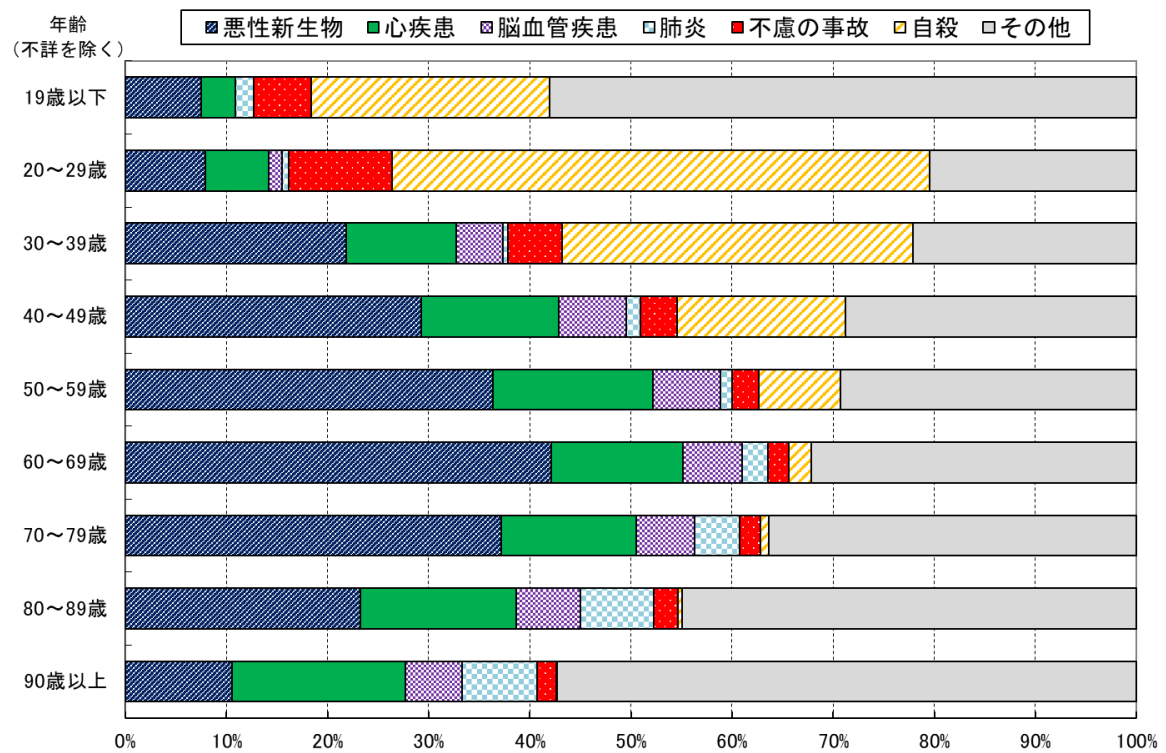
心疾患の平成6年から3年間は、大きく前年を下回っている。この低下は、平成7年1月施行の新しい死亡診断書（死体検案書）における注意書き「死亡の原因欄には、疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください」の影響が考えられる。

脳血管疾患は、平成7年は前年を大きく上回った。これは、死因分類の改正で、肺炎に影響を与えた疾患として脳出血を死亡原因とするようになった影響が考えられる。なお、逆に肺炎は減少している。

平成29年の「肺炎」の低下の主な要因は、平成29年1月適用の死因分類による原死因選択ルールの明確化によるものと考えられる。

年齢階級別に主要死因別割合をみると、30歳代以下では自殺、40～80歳代では悪性新生物、90歳以上では心疾患の割合が最も高くなっている。（図－7）

図－7 年齢階級別にみた主要死因別割合（埼玉県）



(イ) 悪性新生物（がん）

悪性新生物による死亡数は21,009人で、死亡総数の25.1%を占めており、全死亡者のおよそ4人に1人は悪性新生物で死亡したことになる。

年齢階級別にみると、80～89歳が7,572人で最も多く、次いで70～79歳が6,948人、60～69歳が2,579人の順となっている。

また、各年齢階級の死亡総数に占める割合をみると、60～69歳が42.1%で最も多く、次いで50～59歳が36.4%、70～79歳が37.2%となっている。（表－10）

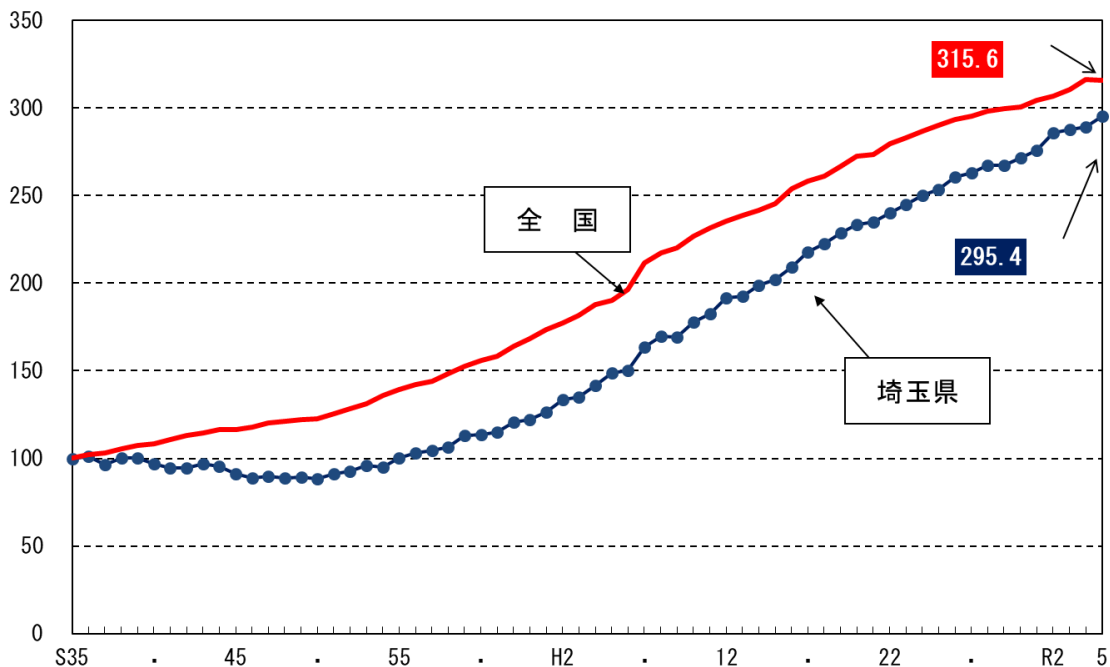
死亡率は人口10万人に対し295.4で、前年より6.2ポイント上昇した。全国は前年より0.5ポイント下降し315.6である。（図－8）

表－10 悪性新生物による死亡数及び割合（年齢階級別）

	総数	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80～89歳	90歳以上	不詳
死亡総数	83 597	212	303	412	1 326	3 341	6 125	18 687	32 598	20 591	2
悪性新生物による死亡数	21 009	16	24	90	388	1 215	2 579	6 948	7 572	2 177	-
（各年齢階級別割合）	100.0%	0.1%	0.1%	0.4%	1.8%	5.8%	12.3%	33.1%	36.0%	10.4%	-
死亡総数に占める割合	25.1%	7.5%	7.9%	21.8%	29.3%	36.4%	42.1%	37.2%	23.2%	10.6%	-

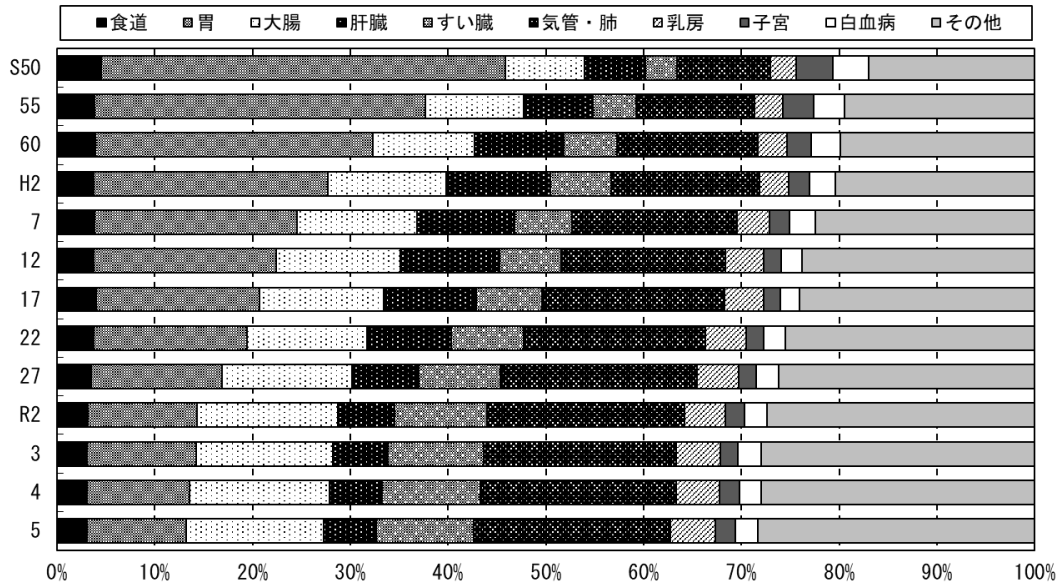
図－8 悪性新生物による死亡率の年次推移（埼玉県・全国）

死亡率（人口10万対）



部位別にみると、「気管・気管支及び肺」が4,230人（20.1%）で最も多く、平成14年以降第1位となっている。また、平成28年に「大腸」が初めて「胃」を上回り第2位となった。令和5年は「大腸」が2,951人（14.0%）、「胃」が2,147人（10.2%）である。（図－9、表－11）

図－9 悪性新生物の部位別死亡割合の推移（埼玉県）



表－11 悪性新生物部位別死亡数及び割合の年次推移（埼玉県）

	S35	40	45	50	55	60	H2	7	12	17	22	27	2	4	5
総数	2 426	2 914	3 508	4 265	5 404	6 665	8 518	10 942	13 163	15 190	17 058	18 823	20 463	20 635	21 009
食道	120	142	183	192	207	264	321	420	500	614	635	662	648	634	638
胃	1 272	1 393	1 535	1 763	1 830	1 891	2 036	2 268	2 450	2 534	2 677	2 520	2 290	2 170	2 147
大腸 (結腸)	346	542	694	1 031	1 344	1 670	1 929	2 105	2 494	2 940	2 955	2 951
(直腸)	178	290	410	664	878	1 101	1 283	1 364	1 694	2 017	2 056	2 009
肝臓	63	106	130	168	252	284	367	466	569	646	741	800	923	899	942
すい臓	229	222	249	266	383	604	912	1 088	1 344	1 443	1 457	1 294	1 181	1 106	1 126
気管・気管支及び肺	42	66	106	139	240	366	532	647	825	1 019	1 269	1 567	1 937	2 074	2 097
乳房	95	174	281	407	652	958	1 292	1 846	2 215	2 829	3 163	3 788	4 136	4 125	4 230
子宮	40	38	77	110	158	199	253	362	511	607	726	806	850	921	967
白血病	138	159	139	160	170	166	176	228	236	261	305	331	403	414	425
その他	58	84	98	158	169	200	230	287	276	302	376	435	475	463	481
	369	530	710	724	1 053	1 323	1 735	2 452	3 136	3 652	4 345	4 926	5 603	5 773	5 947
	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
食道	4.9	4.9	5.2	4.5	3.8	4.0	3.8	3.8	3.8	4.0	3.7	3.5	3.2	3.1	3.0
胃	52.4	47.8	43.8	41.3	33.9	28.4	23.9	20.7	18.6	16.7	15.7	13.4	11.2	10.5	10.2
大腸 (結腸)	8.1	10.0	10.4	12.1	12.3	12.7	12.7	12.3	13.2	14.4	14.3	14.0
(直腸)	4.2	5.4	6.2	7.8	8.0	8.4	8.4	8.0	9.0	9.9	10.0	9.6
肝臓	2.6	3.6	3.7	3.9	4.7	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.5	4.4	4.5
すい臓	9.4	7.6	7.1	6.2	7.1	9.1	10.7	9.9	10.2	9.5	8.5	6.9	5.8	5.4	5.4
気管・気管支及び肺	1.7	2.3	3.0	3.3	4.4	5.5	6.2	5.9	6.3	6.7	7.4	8.3	9.5	10.1	10.0
乳房	3.9	6.0	8.0	9.5	12.1	14.4	15.2	16.9	16.8	18.6	18.5	20.1	20.2	20.0	20.1
子宮	1.6	1.3	2.2	2.6	2.9	3.0	3.0	3.3	3.9	4.0	4.3	4.3	4.2	4.5	4.6
白血病	5.7	5.5	4.0	3.8	3.1	2.5	2.1	2.1	1.8	1.7	1.8	1.8	2.0	2.0	2.0
その他	2.4	2.9	2.8	3.7	3.1	3.0	2.7	2.6	2.1	2.0	2.2	2.3	2.3	2.2	2.3
	15.2	18.2	20.2	17.0	19.5	19.8	20.4	22.4	23.8	24.0	25.5	26.2	27.4	28.0	28.3

(ウ) 心疾患

心疾患による死亡数は12,641人で、死亡総数の15.1%を占めている。

年齢階級別にみると、80～89歳が5,041人で最も多く、次いで90歳以上が3,529人、70～79歳が2,492人の順となっている。

また、各年齢階級の死亡総数に占める割合は、90歳以上が17.1%で最も多く、次いで80～89歳が15.5%、40～49歳が13.6%の順となっている。（表－12）

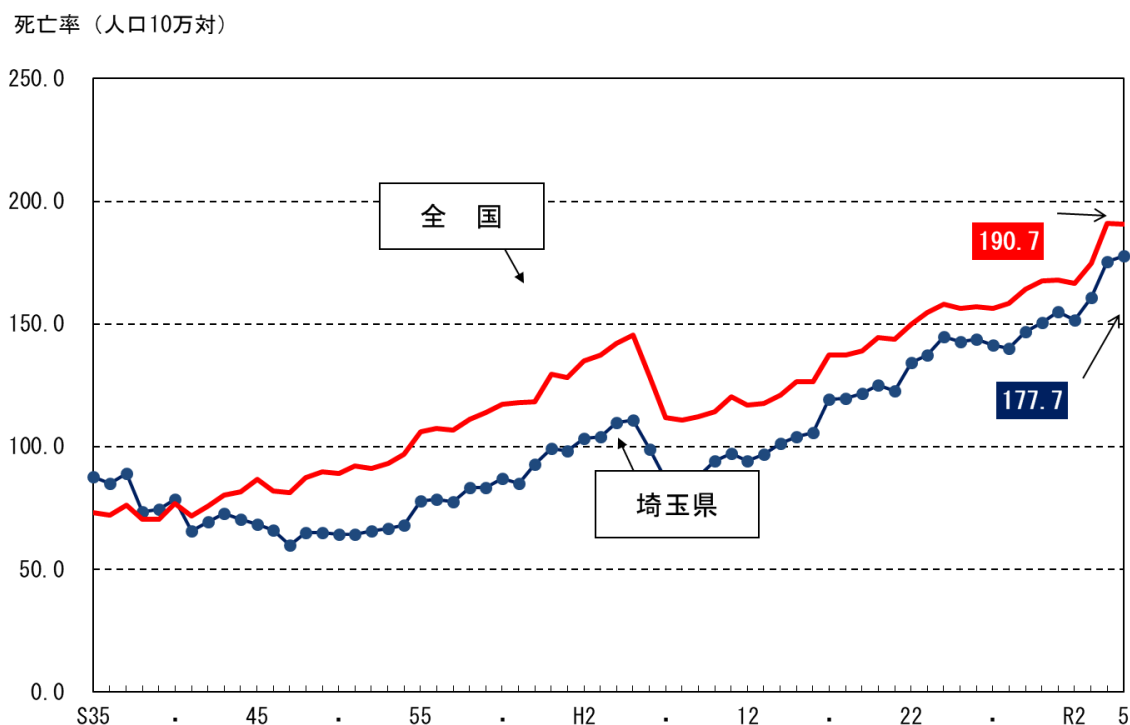
死亡率（人口10万対）は平成7年1月に死因分類及び死亡診断書の改正が行われた影響で、平成7年に一度大幅な低下を見せ、その後は上昇傾向にある。

令和5年は前年より2.2ポイント上昇し177.7であった。全国は前年より0.2ポイント低下し190.7である。（図－10）

表－12 心疾患による死亡数及び割合（年齢階級別）

	総数	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80～89歳	90歳以上	不詳
死亡総数	83 597	212	303	412	1 326	3 341	6 125	18 687	32 598	20 591	2
心疾患による死亡数	12 641	7	19	45	180	529	799	2 492	5 041	3 529	－
（各年齢階級別割合）	100.0%	0.1%	0.2%	0.4%	1.4%	4.2%	6.3%	19.7%	39.9%	27.9%	－
死亡総数に占める割合	15.1%	3.3%	6.3%	10.9%	13.6%	15.8%	13.0%	13.3%	15.5%	17.1%	－

図－10 心疾患による死亡率の年次推移（埼玉県・全国）



(エ) 脳血管疾患

脳血管疾患による死亡数は4,992人で、死亡総数の6.0%を占めている。

年齢階級別にみると、80～89歳が2,062人で最も多く、次いで90歳以上が1,155人、70～79歳が1,085人の順となっている。

また、各年齢階級の死亡総数に占める割合は、40～49歳が6.7%で最も多く、次いで50～59歳が6.6%、80～89歳が6.3%の順となっている。（表－14）

死亡率（人口10万対）は総じて低下傾向で、令和5年は前年より2.7ポイント低下し70.2であった。全国は前年より1.8ポイント低下し86.3である。（図－12）

表－14 脳血管疾患による死亡数及び割合（年齢階級別）

	総数	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80～89歳	90歳以上	不詳
死亡総数	83 597	212	303	412	1 326	3 341	6 125	18 687	32 598	20 591	2
脳血管疾患による死亡数	4 992	-	4	19	89	222	356	1 085	2 062	1 155	-
(各年齢階級別割合)	100.0%	-	0.1%	0.4%	1.8%	4.4%	7.1%	21.7%	41.3%	23.1%	-
死亡総数に占める割合	6.0%	-	1.3%	4.6%	6.7%	6.6%	5.8%	5.8%	6.3%	5.6%	-

図－12 脳血管疾患による死亡率の年次推移（埼玉県・全国）

